

子育てについて 「楽しく」「互いに」「体験的に」 話してみませんか!

市では、子育てについて『親学（おやがく）プログラム』を用い、参加者同士が語り合うことで、親同士のつながりを強めたり、子どもたちを地域ぐるみで支えていこうとする意識を高めたりする活動を行っています。

『親学プログラム』って、何??

『親学プログラム』は島根県が開発したもので、親(保護者)や子どもたちにかかわる全ての方を対象に、子育てについての気づきを促し、子育て世代を支援・応援するための参加型の学習プログラムです。

プログラムの特徴として、一方的に話を聞くのではなく、参加者同士で楽しく語り合うことから子育てについて改めて考えることを大切にしています。

テーマとして、「親子のコミュニケーション」「しつけとルール」「さまざまなつながりをつくる」などがあり、親子の関係性だけでなく、地域の大人としての動きを考えることもできるものです。

このような場面で、子育てについて語り合われています。

- * 保育所や幼稚園・小中学校の保護者研修会
- * 子育てサークル等の意見交換会
- * 地区青少年育成会議の研修会 など

41回
開催

延べ
731名
参加

平成29年度実績



<グループでの話し合い>

ほかの親さんと子育てについて、改めて話してみると、同じ悩みがあることが分かって安心した。

ワークショップ形式での研修は取り組みやすく、すごくよかった。また、機会があれば参加したい。

参加者の声

地域の中で、どんな子どもに育ててほしいかを考えたので、自分ができることは何かを考えていきたい。



<楽しい雰囲気づくり>

ゲームのようにスタートして、とても楽しい時間だった。このようにテーマがあると話しやすいと思った。

おたずね/教育政策課 ☎ 21-6909 fax 21-6192

人権・同和教育基礎講座 受講生募集!!

同和教育をはじめとするさまざまな人権問題の解決に向けて、人権・同和教育基礎講座を9月から4回シリーズで開催します。皆さまの受講をお待ちしています！

手話通訳あり

日 時	学習テーマ(内容)	学習方法	講 師
第1回 9月8日(土) 9:30~11:30	「母娘で問うた部落差別 — 差別はいま —」(同和教育)	講話と 質疑応答	さかた 坂田かおりさん
第2回 10月13日(土) 9:30~11:30	「ハンセン病を知っていますか？」 (ハンセン病)	講話と 質疑応答	国立ハンセン病資料館 主任学芸員 きん 貴粉さん
第3回 11月3日(土・祝) 9:30~11:30	「多文化共生の地域づくりのために」 (多文化共生)	講話と 質疑応答	大阪大学 特任准教授 えのい 縁さん
第4回 12月15日(土) 9:30~11:30	「子どもの人権を知って、子どもとともに～訪問 アドボカシーから考える～」(子どもの人権)	講話と 質疑応答	(公社)子ども情報研究 センター理事 おくむら ひとみ 興村 仁美さん

◆会場/出雲市役所1階くびき大ホール ◆申込期限/8月31日(金)

◆申込方法/電話またはファクス、Eメールなどで、氏名、住所、電話番号を下記までご連絡ください。

要約筆記など配慮が必要なことがありましたら、併せてお申し出ください。

◆申込み・おたすね/人権同和政策課 ☎22-7506 FAX22-7502

〒693-0022 出雲市上塩冶町 2657-1 出雲市隣保館内

Eメール jinken@city.izumo.shimane.jp

子どもと過ごす休日 土曜日の子育て支援センター



子どもたちが明るく元気に育つのを
見ると、未来に希望を感じます。
毎日を心豊かに過ごし、子どもも大人
も「えがおになあれ」...そんな願いを
込めて、このコーナーを設けました。
(出雲市要保護児童対策地域協議会)

子育て支援センターは、妊婦さんや就学前のお子さんとそのご家族が、ゆったりと親子で遊びながら仲間づくりや情報交換ができる場所です。

平日は、いろいろな行事に参加でき、土曜日は、のんびり遊べる場所として利用できます。

土曜日の利用で多く見られる光景の一つに、お父さんと来所して親子が笑顔で過ごしている姿があります。

「たまには子どもと一緒に遊びたくて。」

「今日は、妻の休日です。」

と言いながら、父と子でのんびり過ごす姿には、とても微笑ましいものがあります。

親子で向き合い、遊びながらコミュニケーションを取ることで、子どもたちは笑顔をたくさん見せてくれます。



おたすね / 子ども政策課
☎2166004

忙しい日々を追われ、親子のふれあう時間が少なくなりがちな現代ですが、親子のお出かけ先として、お母さんはもちろん、お父さんも一緒に家族で子育て支援センターを利用してみませんか？

お父さんの育児がまたひとつ豊かになるきっかけになり、スキルアップするかもしれません。

(執筆: いずも子育て支援センター)